

発見がいっぱい！富士山樹海トレッキングと洞窟探検

令和6年度 緑の少年団交流集会『富士山樹海トレッキングと洞窟体験』活動レポート

7月26日（金）に公益財団法人静岡県グリーンバンク主催による『緑の少年団交流集会』が山梨県の富士樹海にて開催されました。当日は朝から強い日差しで気温も高く、集合場所の道の駅なるさわの駐車場もかなりの暑さでした。あいにく富士山は雲に隠れてしまっていたようですが、県内から4団体25名の子供たちが参加しました。

まずはしっかり準備体操！

午前10時40分に開会式が始まりNPO法人ホールアース自然学校のスタッフから当日のスケジュールの説明がありました。「今日は富士山のお腹の中に入ります」というスタッフの言葉に子供たちはワクワクした様子で、実際に自分たちが今いる場所を模型で触らせてもらおうと早く探検に行きたいという気持ちが子供たちの表情から伝わってきました。「自然を守ること」「自分の身は自分で守ること」「安全に楽しく」「水分補給を忘れずに」探検するための大切なことを教わってから、スタッフ考案の『富士山体操』をみんなで元気に行い、いよいよ探検がスタート！



模型を触って実感する子供たち



元気いっぱいに『富士山体操』

アスファルトの道から樹海へ

集合場所の駐車場から樹海に向かって2列になってアスファルトの道を歩き始めました。しばらく歩くと少しずつ木々が見え始め、足元に野イチゴを発見した子供たち。「これおいしいよ！」と言いながらさかさ食べていました。さすが常日頃から森に親しんでいる子供たちは違います。スタッフから生えている木が何の木かという質問があり立ち止まって木の葉を観察。「これはヒノキ」名前を知っている子もいて葉の裏までしっかり観察しました。「ここは人が植えた人工林だから同じ木が一定の間隔で植えられているんだよ」とスタッフから説明がありました。その後しばらく歩くと樹海へのゲートが見えてきました。そこからは草の生えた道になっていて、周りの様子が変わっていくのを感じました。「なんか涼しくなってきた」と団員の子が言いました。確かにアスファルトの道を歩いていた時よりも若干涼しく感じられました。



人工林とアスファルトの道



野イチゴを発見！

木だけじゃない！樹海には生き物がいっぱい

樹海の入口に着くとスタッフがスッと伸びた木を指さし「あの木に穴が開いてるの見える？」というと「どこ？」「あった！あそこだよ」子供たちは穴を見つけて大はしゃぎ。「どうして穴が開いているの？」という質問に「きつつきが開けた！」と元気な答えが。「じゃあ、今からきつつきゲーム！10秒間で手を何回つつけるかやってみよう！」「よーいスタート」一斉に手をつつき出す子供たち。あっという間に10秒が経ち一番回数が多かった子は80回でした。「きつつきはなんと10秒間で200回木をつつくんだよ。」という話に驚いていました。「今はリスが巣として2次利用しているんだよ。」木に開いた一つの穴を再利用することが自然界で行われていることを学んでいる様子でした。樹海には、きつつきやリス以外にもは鹿やハクビシン、クマなど30～40種類の生き物がいることや東京ドーム640個分の広さがあること、あちこちに開いている穴が溶岩が木を巻き込んで冷めてできた話を聞くうちに樹海についての興味が深まっているようでした。



木に開いた穴を見上げる子供たち



穴ができた過程を説明するスタッフ

貴重な体験！樹海でランチ&ゲーム

歩きながら子供たちの口々から「お腹すいたー！」という声。「もう少しでランチの場所だから頑張れ！」「早く食べたい！」と言いながら歩くと少し開けた場所に到着しました。「ここでご飯食べるよ！」とスタッフ。「やったー！」という歓声とともに、団ごとに分かれてお待ちかねのランチタイムです。樹海でご飯を食べるといふなかなかできない貴重な体験となりました。

ランチタイムの後は、お楽しみのレクリエーションタイムです。スタッフが「ボクが考えた富士山ゲームをやります！覚えて流行らせてね！」2人1組になって「富士山、富士山、富士山」と言いながら手を合わせるゲームで言えたチームはしゃがむというシンプルなゲームでしたが、みんな大盛り上がり！もう一つは共通の仲間を探すゲームで、「血液型が一緒の人！」というお題や「何年生？」というお題に反応してワイワイ言いながら仲間を探す姿はとて楽しそうでした。違う団の子と仲良くなる良いきっかけになりました。

ゲームの後は、静岡県グリーンバンクの歌「テウタスミドリ」をみんなで合唱し、樹海での楽しいひと時を過ごしました。



お待ちかねのランチタイム



大盛り上がりの富士山ゲーム



みんなで合唱

いよいよ洞窟探検！

ご飯も食べてお腹いっぱいになった子供たちは元気も回復したようで「早く洞窟に入りたい！」と洞窟へ行く気満々です。予めスタッフから「洞窟探検の場所にはジミー（スタッフ）が待ってるよ」と聞いていた子供たちはスタッフを見つけると「あージミーがいた！」「やったー洞窟だ！」と足早にスタッフの元へ。「ここでヘルメットを被って洞窟へ向います」とヘルメットが配られました。なかなかうまく被れない子がいると上級生が手伝ってあげたりして協力しながら準備を進めました。

アスファルトの道路の脇を入るとまず一つ目の洞窟に到着。ポカリと開いた洞窟を見て、どんどん入っていく子もいれば、少し怖いのかゆっくり入っていく子もいて性格が垣間見れました。中に入ると、外気とは一転ひんやりとした空気が流れていました。「涼しい〜」「気持ちいい」とそれぞれ感想を口にしながら洞窟の奥へと進んでいきます。狭い道を進んでいくと突然広い空間が。ここまでライトを照らしながら進んできた子供たちに「みんな一斉にライト消して静かにしてみて」スタッフの言葉にライトを消すと暗闇が広がりました。静かな空間に水滴が落ちる音だけが響きます。「ライト付けていいよ。どうだった？」「暗くて怖かった」や「水の音がした」などそれぞれ感想を口にするとスタッフから水が富士山から染み出ていることなど洞窟についての説明がありました。その後、2箇所の洞窟を探検した子供たち。洞窟ではコウモリに出会うなど滅多にない体験に大満足の様子でした。



洞窟の入口に到着



洞窟に興味津々！

金メダル級の楽しい交流会に！

すべてのプログラムを終えた子供たちは集合場所の駐車場に戻って閉会式です。「今日はどうだったかな？今年パリオリンピックなので、オリンピックにあやかって今日の金メダル、銀メダル、銅メダルを決めて下さい！それぞれの団に分かれて話し合って決めて下さい」との言葉に早速子供たちの話し合いが始まりました。「洞窟が楽しかった！」「お弁当！」「コウモリにあったこと」など楽しかった体験を次々に上げ、どれを金メダルにするかなどを真剣に話し合っていました。その後、各団の代表者が金・銀・銅メダルを発表し、それぞれの体験を他の団の子と共有しました。

樹海のトレッキングや洞窟探検など、普段の生活では味わうことのない体験を通して、身近である富士山の神秘を感じた1日となりました。



金メダル級の交流会でした！

